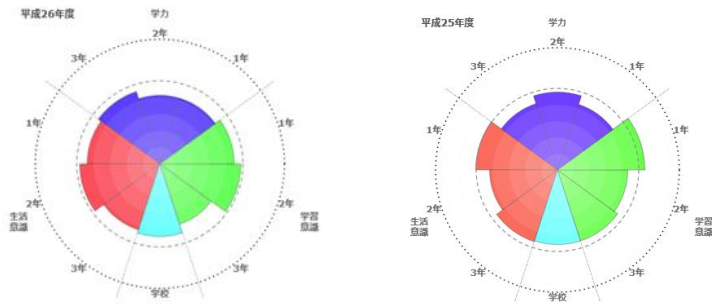


1 学力調査等からの実態把握

(1) 「横浜市学力・学習状況調査」のプロフィールから



ア プロフィールの傾向

依然として学力状況は停滞気味である。学年集団により差はあるものの、全体的に学習に対する意識も向上していない。また、生活に対する意識も全体的に低い状態が続いている。

イ プロフィールの診断

○教科学習状況調査 教科別でみると、各教科ともに課題が見られる。1年生で

は、英語の学習意識が市平均を上回っているものの、全体的に基礎・基本が市平均を下回っており、基礎・基本をさらに充実させる必要がある。2年生は、各教科とも学習意識が高いものの、基礎・基本が市平均を下回っているなど課題を残している。

○生徒質問紙調査 生徒の学習に対する意識をみてみると、各教科とも学習する意義については全体的に多くの生徒がその意義を理解している。しかし学習については「好きではない」と答える生徒が市平均をかなり上回っている。さらに、半数以上の生徒が学校の授業の内容を「ほとんどわからない」「わからないことが多い」と答えている。1日の勉強時間も、一時間以下の生徒の割合が6割を超え、市の平均よりも12%上回っている。1日の読書時間も「まったく読まない」生徒は半数を超え、市平均に比べ、10%以上多い。携帯電話の使用率も依然として高く、全体の4分の1の生徒が一日3時間以上使用している。これは市の平均を大きく上回っている。まちの行事への参加状況は、半数以上の生徒が参加していると答え、地域との連携が深まっている状況がつかめる。

(2) 「横浜市学習状況調査」結果から(経年分析) 学習することの意義を感じている生徒が多くいるにもかかわらず、結果につながらず、学力の向上が図られていない現状がある。学力層でみるとCD層の生徒が全体の約50%を占めていて、教科書レベルの基本的な内容を十分に身につけていない生徒が多い。学習内容がわかった体験を数多く経験させたり、既習事項の学び直しを取り入れるなど、授業改善が必要である。また、生徒へ自学自習する動機付けも今後の課題となる。

2 今後の方向

(1) 最優先課題

- ア. 個に応じた学習指導を推進する。
- イ. 研修を通じて、学習評価の信頼性を高め、教師の授業改善、生徒の学習改善を促す。
- ウ. 学習の達成度や課題を生徒一人ひとりに分かりやすく示す。
- エ. 「自尊感情を高める授業づくり」、「生徒指導につながる授業づくり」に向けた研修及び授業研究を実施する。

(2) 学力向上重点目標(中期学校経営方針への位置づけ)

- ア. 生徒理解に一層努め、生徒との信頼関係を基盤として、規範意識を醸成します。また「道徳」の授業公開も実施し、家庭からの理解・協力も得ていきます。
- イ. 教職員が率先して学習環境の整備に努めます。登校時のあいさつ運動や花壇には常に花を植え、校内清掃も徹底し、美しい学校を維持します。
- ウ. 「わかる授業」を目指し、日常的な授業公開や授業評価、各種研修会、指導主事の指導等により、授業の質的向上を図ります。
- エ. 授業と家庭学習の連携を図り、宿題や課題への取組を充実します。
- オ. 「知徳体公開」バランスのとれた教育活動を展開し、自分や自分を取り巻く社会を肯定的に受け止められる「キャリア教育(総合的な学習の時間)」を展開します。

3 具体的方策

全教科での言語活動の充実による確かな学力の育成（平成27年度目標）

（1）教員一人ひとりの授業力向上への取組

ア. 授業の質的向上

- ・ **横浜版学習指導要領の確実な実践** 全教職員が横浜版学習指導要領を理解し、その内容に添った授業を日々実践する。
- ・ **「活用」問題の作成と実施** 活用型（記述問題）問題を全教科で作成し、日常・定期試験等で実施。
- ・ **小中連携による授業力向上** 授業交流や研修を通して相互に授業改善を図り、小中一貫カリキュラムを推進する。
- ・ **教員、保護者、生徒及び学校関係者による授業評価アンケートの実施** 自分の授業を見つめ直し、言語活動充実に向けた授業内容、指導、評価等を構築し、生徒との信頼関係を築く。

イ. 基礎学力の向上と家庭学習の確立

- ・ **自力で問題解決をする経験の積み重ね** 活動や実験、グループ活動など思考や表現を問う授業改善を図る。各教科等で生徒の考えや意見を問う場面設定や活動場面の導入を図る。
- ・ **学習相談、（補充）学習会等の計画的実施** 定期テスト前の学習相談や長期休業中の学習会（補習等）及び外部ボランティアの活用により、生徒の学習意欲を高める。
- ・ **個に応じた指導の充実** 英語科・数学科で単元による少人数指導、理科・数学科等でのT・T指導を実施し、個に応じた指導の充実を図る。

（2）学校組織としての取組

ア. 規範意識の醸成

- ・ **全職員による全生徒理解** 学年を超えての生徒理解と情報交換の徹底。どの職員も授業中の巡回等は、全学年実施。
- ・ **生徒の社会的スキルの向上** 学級活動や教科の中で横浜プログラムを実施し、生徒の人間形成に関わる社会的スキルの向上を図る。
- ・ **「道徳」教育の推進** 全教育活動を通して、道徳教育を推進する。礼儀作法による規範意識の向上を図る。
- ・ **基本的生活習慣の確立** PTA活動の活性化、家庭での生活習慣の改善を図る。早起き・朝食の摂取、TVやゲーム遊びの時間縮減。
- ・ **部活動による規範意識の醸成** 目的を共にする仲間として、規範意識に関わるもの、基本的な生活習慣に関わるものについて指導。

イ. 学習環境・意欲の整備

- ・ **朝をさわやかに迎える活動** 教職員は、きれいで整った学校、教室環境で生徒を笑顔で迎える。また、PTAと協力して朝の登校指導を行う。
- ・ **環境整備** 敷地や校舎などの整備。花壇整備をPTA・生徒・教職員が協力して行い、ものを大切に育てる。

ウ. キャリア教育の推進

- ・ **開かれた学校づくり** 生徒一人ひとりが家庭の一員として、地域の一員であること知らせる。
- ・ **社会の一員としての活動** 職業体験や福祉体験を通して、意識の涵養を図る。

学力向上アクションプラン検証と授業評価・学校評価

- 評価計画 ・授業評価（年3回、関係者1回以上）・自己評価（年1回）学校関係者評価（年1回）